

EKISUMER[®]

生活に寄り添う駅・沿線を考える

2021 AUTUMN VOL.49

特集 循環型経済から考える駅の可能性

生活の中の多様なシーンで

駅を訪れる人々。

駅消費研究センターでは、

そんな人々を“エキシューマー”と呼び、

さまざまな視点から研究しています。

【発行】

jeki

駅消費研究センター

【発行責任者】五明 泉
(株式会社ジェイアール東日本企画 取締役企画制作本部長)

【編集長】町野公彦
(株式会社ジェイアール東日本企画 駅消費研究センター長)

【編集委員】近藤英彦 村井吉昭 松本阿礼

【アドバイザー】加藤 肇

【お問い合わせ】03・5447・0991

【URL】<http://www.jeki.co.jp/ekishoken/>

【制作】

プロジェクトディレクター
坂野泰士(有限会社シンプル研究所)

編集
小林英明 須田佳織 佐藤勇人 三上真由(株式会社レマン)

デザイン
永島和彦 山田紗弥香(株式会社レマン)

印刷
新日本印刷株式会社

小誌に掲載しているJR東日本社外からの寄稿文や、対談・インタビューなどでの発言の内容は、必ずしもJR東日本の見解を反映しているものではありません。なお、小誌に掲載の情報は2021年9月現在のものです。

Copyright (C) jeki All Rights Reserved.



3つの投票行動と循環型経済

シチリア島の空が真っ赤に染まっている。

2021年8月11日、イタリアのシチリア島で欧州観測史上最高気温ともいわれる48.8度を記録し、山火事が発生した。トルコ、ギリシャでも多くの森林や畑が消失。同月、グリーンランドでは標高3,000メートルを超える場所にもかかわらず、雪ではなく雨が降ったという。6月末、カナダ西部の異常な熱波の影響で、気温が50度近くに上昇、数百名の人々の命が失われた。7月中旬、ドイツを中心とした西ヨーロッパ各地では、大雨・洪水の影響で多数の死者が出た。

日本においても、8月、九州・中国地方で記録的な豪雨となった。7月には静岡県熱海市で大規模な土石流が発生し、20名以上の命が失われ、8月30日時点で未だ行方不明の方もいるという。このように、世界各地で甚大な被害が発生しており、個人や企業は「疑う余地のない気候危機」というものを目の前に突き付けられている。

今までは、地球環境の持続可能性ということ考えた場合、「環境や社会にとっての善きこと」と、「企業にとっての善きこと」がトレードオフの関係にあった。しかしながら危機が顕在化している現在は、「どちらか」ではなく、「どちらも」考えるようになってきている。こうしたこと背景にあるのは、「買う」、「働く」、「投資する」という3つの分野におけるプレイヤーの存在ではないかと考える。一つは、「購買という名の投票行動」を通じて、なるべく環境に対する負荷の少ない商品やサービスを購入したいという人たちの存在。もう一つは、待遇面よりも、むしろ社会貢献活動を行っている企業で働きたいという「就社を通じた投票行動」を行う人たちの存在。さらに、米国の幾つかの金融機関のように、気候変動に対して何も行動を起こさない企業とは取引をしないという「投資という名の投票行動」を行うプレイヤーの存在である。

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)が世の中ゴト化し、自然の脅威とビジネス機会が交錯する今日において、産業革命以降の「資源をとって、つくって、捨てる」という「直線型経済モデル(リニアエコノミー)」に代わって、製品設計の段階から捨てるフェーズをなくす、「循環型経済モデル(サーキュラーエコノミー)」が大変注目されている。

今回本誌では、先の「投票行動」故に、駅に関しても循環型経済というレンズで捉えてみるのが、コストではなく、むしろこれからのビジネス機会になり得るのではないかとこの想いをもつに至った。特に、通勤・通学等から派生する駅の利用頻度という特性を勘案すると、「売って終わりではない、まさに顧客との循環的な関係」が築ける可能性があるのではないかと秘かに思っている。

『EKISUMER』編集長 町野 公彦

FEATURE

循環型経済から考える 駅の可能性

- [INTERVIEW]

SDGsを楽しく深く伝え、アクションにつなげていく
講談社『FRaU』編集長 兼 プロデューサー
関 龍彦さん

03
- [COLUMN]

「循環型経済」への取り組みに関する消費者調査より

06
- [REPORT]

新たな発想で始まった循環型サービス
ごみを減らすだけでなく、
顧客との関係性強化も図れる循環型ショッピングプラットフォーム
Loop

共同のコンポストが新たなコミュニティを生み出す、
都市での堆肥活用プロジェクト
1.2 mile community compost

古着の可能性を広げ、服を永く着ることをカルチャーにする古着店
進化型古着屋“森”

不動産会社による新発想、
マンション住民のためのシェアリングエコノミーツール
シェアコム

07
09
11
13
- [THINKING]

今、循環型経済への取り組みを本格化すべき時

15

SERIES

- [REPORT]

STOREWATCH
nue by Totoya 国分寺店
量り売りから始める、ゼロ・ウェイストな暮らし
ビジネスモデルのシェアで仲間を増やし、持続可能な社会をつくる

17
- [RESEARCH]

REAL EKISUMER FILE #05
在宅ワークで駅ナカ利用が様変わりしたキャリア系ワーカー

18

今、循環型経済への取り組みを本格化すべき時

生活者の心理的なハードルを下げる工夫を行う循環型ビジネス

近年の記録的な豪雨、さらに熱波による災害などは、企業活動はもちろんのこと、私たちの生活にも気候変動による危機が迫っていることを示しています。

このような状況の下、企業にとっては、地球環境を考え循環型経済を前提としたビジネス活動(商品やサービスの設計段階から資源の再利用を前提に考え、廃棄を限りなく少なくする循環型ビジネス)の着手が、もはや避けて通れないものになっています。

しかし、生活者に対して、やらなければディストピアが到来するといった恐怖を訴求するだけでは、その商品やサービスを提供しても、具体的なアクションにつながりにくく、結果、ビジネスにもプラスになりません。循環型ビジネスの商品やサービスに対する生活者の心理的ハードルを下げるために、何らかの工夫が求められるでしょう。今回取材した事例はいずれも、生活者が取り組みたくなる・簡単に取り組める工夫がなされていた。

『FRaU』のSDGs特集号は、女性誌ならではのエンターテインメント要素を活用することで、読者のSDGsへの心理的ハードルを下げたと言えます。同誌は大きな反響を呼び、約2年間で8冊を発行。読者からの関心は非常に高く、雑誌の枠を超えて活動する会員組織への参加者も、およそ2,000人に達しています。また、広告出稿量も発行を重ねるごとに増え続け、ページ数も当初の2倍近くになるなど、商業的に成功を収めています。その結果、企業とのタイアップはもちろん、省庁や大学、自治体などからの連携依頼も多いと言います。

Loopや“森”では、循環型経済への取り組みが新規顧客を呼び込むきっかけともなり、さらに顧客との間に従来の接客以外の会話も生まれるなど、売り場がコミュニティの場として機能し始めているようです。また1.2 mile community compostでは、資源の循環を通して人や地域のつながりが生まれるとともに、参加者にとっては「楽しそう」「菜園づくりをしてみたい」といった楽しみもモチベーションとなり、心理的ハードルを下げることに役立っています。“森”の顧客は、洋服をお直すことで、再利用するという意識ばかりでなく「困事が解決した」という喜びを感じています。これらの事例は、循環を核としてコミュニティが誕生し、循環に関連した体験を楽しむ生活者が増えるなど、循環型経済が生活価値向上のきっかけとなっていることを示すものでしょう。

さらに、バブル経済の体験がない若い世代、特に子どもたちから環境に対する教育を受けているZ世代といわれる層は、循環型経済を考慮した商品やサービスの受容度は高いでしょう。“森”を展開するヒューマンフォーラムの井垣敦資さんは、Z世代は「無意識的に環境のことを考えて、古着を選択している」と指摘します。『FRaU』の関龍彦さんによれば、就職活動においても「将来性や待遇よりも、社会貢献度の方が企業を選ぶ大きな要因になっている」そうです。既にこの世代にとっては環境への対応が当たり前のことであり、言い方を変えれば、環境への配慮なしには、若い世代を取り込むことはできないとも言えます。

循環型経済と駅の親和性

循環型経済へ向けて動き始めた今、Loop Japanのエリック・カワバタさんやヒューマンフォーラムの井垣さんからは、駅に対する期待の声が上がりました。多くの人が通勤などで反復的に訪れる駅は、リユースとの相性が良く、重要な拠点として、循環型社会の実現への大きな力になると言います。

また、駅商業施設は売り場であるだけでなく、1日数百万人にリーチできる、価値あるリアルメディアとも言えます。加えて、会員化された顧客も持っています。『FRaU』がSDGsの普及をメディアの使命として捉えているように、駅や駅商業施設は“循環”との結節点の役割を担えるでしょう。

コロナ禍の影響を受け、テレワークが日常化し、出社日数は減ったものの週に数日は必ず出社する人、あるいは、エッセンシャルな職業のため、コロナ禍前後でも変わらず毎日通勤する人は確実に存在します。

そのような状況下でシンプルに考えた場合、循環型ビジネスは、駅商業施設への来店行動の継続化、来店した顧客との関係性強化、コミュニティへの参加機会の創出等、多くの利点があるでしょう。Loop Japanのカワバタさんは、「駅のように、日本全国どこにでもあって、多くの人が毎日のように利用する

所が拠点になったら、それこそ大きな力になると言います」と話してくれました。例えば、容器返却などリユースのために「来店行動が習慣化する」ことが期待できます。通勤やお出掛けの際に習慣的に立ち寄る駅ですが、循環型ビジネスによって、駅を通過するだけでなく駅商業施設への来店行動につながられるのではないのでしょうか。

加えて、カワバタさんが指摘するように、「メッセージの発信やお客さまとのコミュニケーション」としてうまく利用すれば「カスタマーロイヤリティにもつながるはず」です。環境問題に取り組む姿勢に共感する新たな顧客層の取り込みや、そうした顧客のファン化にもつながっていきます。

また、こうした取り組みは、店舗側のスタッフのモチベーション向上にも役立ちます。Loopでは、実際に取り組みを行った店舗スタッフから「廃棄物を減らすためにこのような取り組みに参加することは自慢であり、そこで働いていることが誇りだ」という言葉が聞かれたと言います。店舗での慢性的な人手不足が課題となっている現状において、“循環”がES(従業員満足度)を高める効果にもつながることを示唆しています。

後からではなく、今取り組むべき機会

今回行った消費者への調査では、「ごみの削減と資源の維持を実現する商品・サービスの購入・利用」に対して、約7割が「意向あり」と答えています。ただし、意向はあっても、行動に移した人は約4割。どうしたらいい方法が分からないという人が多く、普段使うお店など身近な場所にサービスを求めています。多くの人が日常的に利用する駅は、そうした、地球環境のための商品・サービスの購入・利用意識はあるものの、具体的な行動に移せていない人々にアプローチできる大きな可能性を持っています。今はまさに、潜在化していたニーズが顕在化しようとしている時期。シェアコム開発に携わった日鉄興和不動産の松本善秋さんは、「人々のニーズよりもだいぶ先行して」新たなサービスにチャレンジしたと話していました。

投資家の視点から見ても、ESG投資が重要視されるなど、今後はますますSDGs銘柄への注目が集まると思われます。『FRaU』の関さんは、持続可能な取り組みにするためには、メインの事業に組み込んで本気でやるべきだと言います。「未来のことをちゃんと考えたものを売り、社会のためになりつつ儲けるべきです。そういう意味で、SDGsはむしろ儲けなくてはいけないのです」と。

循環型ビジネスは、企業がその活動を行う上で関与するさまざまなステークホルダーに関連します。顧客のみならず、従業員、投資家、地域社会等いずれの対象にとってもプラスのインパクトを持つものなのでしょう。同時に、気候変動に対応し、かつ、今後の重要な顧客層になり得るZ世代に働き掛けるためにも、循環型ビジネスの試みは、「後からではなく、今取り組むべき機会」であると言えるでしょう。



nue by Totoya 国分寺店

量り売りから始める、ゼロ・ウェイストな暮らし
ビジネスモデルのシェアで仲間を増やし、持続可能な社会をつくる



量り売りでごみを出さない、ゼロ・ウェイストなお店「nue by Totoya(ニュー・バイ・トトヤ)」は、JR国分寺駅から徒歩10分ほどの「カフェスロー」内にあります。店内には、EUのオーガニック認証やフェアトレードにこだわって輸入した豆や小麦、パスタ、ドライフルーツなどの食材がずらりと並び、自然に優しい手作り洗剤の材料もそろいます。店名の「nue」は、フランス語で裸の意味。お店に、持ち帰り用のビニール袋やプラスチックトレーはありません。瓶や布の袋、自宅ですべての保存容器を持参し、自分に必要な分だけ買うスタイルです。

同店を運営する株式会社斗々屋は、かねてからゼロ・ウェイストを目指した卸事業を営む。2019年9月に、量り売りのニーズ把握やノウハウを蓄積するモデル店舗として、nue by Totoyaを代々木でスタートしました。日曜だけの営業でしたが、街の人たちはもちろん、口コミで知られるようになり、営業日を増やしたり他所でポップアップストアを開いたり反響は想像以上。2021年1月に国分寺へ移転

してからは、お店を日常使いできるようにと、米、切り干し大根、梅干し、味噌など日本の食材や、地元農家の野菜も限定販売するなど商品の幅を広げています。

斗々屋のノイハウス萌菜さんによると、常連客も増え、男女問わず高校生から家族連れまで訪れるそう。また、SNSやメディアを通して知り、遠くから来店する方も絶えません。「やはり環境に関心の高い方が多いですね。『今日は家にあった空き瓶を持ってきました』『ごみが減らせてうれしい』など、お客さまとの間に自然とコミュニケーションが生まれるのも、量り売りの良さです」と話します。20gから買える気軽さも、支持される理由の一つ。量りとレジが一体化したシステムを導入し、利便性も高めています。さらに今年7月には、京都にスーパーマーケット「斗々屋京都本店」もオープンしました。キッチン設備を置き、夜は当日販売した生鮮食品を活用するレストランも運営。フードロスやごみを出さないスーパーを目指しています。

そしてゼロ・ウェイストの実現には、サプライチェーン全体での取り組みが欠か

せません。仕入れ時も、生産者の協力の下、繰り返し使える納品袋やリユース段ボールを活用し、ごみが出ない仕組みを取り入れています。量り売りのお店を増やし、つなぐ活動にも積極的です。ゼロ・ウェイストショップの開業講座をオンラインで開くなど、量り売りに興味を持ち、挑戦したいと考える人々をサポートするための場を設けているそうです。

「ビジネスノウハウは独占せずに、広く共有し、経済も成長する循環型な社会を作っていきたい」とノイハウスさん。

ゼロ・ウェイストを一過性の流行ではなく、暮らしの当たり前に。国分寺店は、地域に根付きチャレンジができるモデル店舗の利点を生かし、これからも量り売りの可能性を引き出していきます。

1. カフェの利用客も訪れやすい、オープンな雰囲気
2. ディスペンサーはガラス製でプラスチックフリー。手で触れる場所が少なく衛生的でもある
3. 「容器はおしゃれなものでなくても、家にある保存容器で」とノイハウスさん

DATA
東京都国分寺市東元町2丁目20-10
<https://www.nuebytotoya.com/>

REAL EKISUMER FILE

FILE #05. 在宅ワークで駅ナカ利用が様変わりしたキャリア系ワーカー

メーカーで海外業務を担当するキャリア志向のEさん。以前は、混み合う路線を乗り継いで週5日出社する生活でしたが、1年以上続く在宅ワークで暮らしが大きく変わりました。当初は通勤がなくなった分、時間にゆとりができるだろうと思っていたのですが、「空いた時間を別の用事で埋めてしまい、毎日がむしろ忙しくなった」とEさん。朝食をきちんと調理したり、コーヒーをカフェでテイクアウトせず、豆から挽いて自分で入れたりするようになったと変化を語ります。それに加えて、朝と夕方は、在宅ワークになってから飼いだめた犬の散歩をするのが日課となりました。

新たな日々の中でEさんは、「大事なものを見極めて、生活環境を整えたい」と思うように。洋服やメイク用のコスメはほとんど買わなくなり、さらに、不要なものは廃棄するなど、断捨離を決行したと言います。フリマアプリでいつか売ろうと保管していた服は、持っていること自体がストレスになると判断し、捨ててしまうことで心の負担も減らしたそうです。こうした積み重ねによって、「考え方をシンプルにする」「大事なことに時間を使う」ことが、暮らしを心地良くするためのマイルールになりました。

また、Eさんの駅ナカの利用スタイルにも変化がありました。以前は週に1度、仕事帰りに表参道駅にあるカフェやベーカリーで軽く外食をしたり、ショップで買い物をしたりしていました。お気に入りのコスメショップで、愛用の美肌パックやかわいいパッケージの日用品を買うことが多かったそうです。しかし、通勤がなくなってからは表参道の駅ナカには足が向かず、シンプルな生活雑貨を扱う自宅近くの路面店でスキンケアアイテムを買うようになりました。

その代わりに、よく利用するようになったのが、実家に近い上野駅の駅ナカです。コロナ禍で人と会えない状況が続く一方で、家族と会う頻度が以前の2~3カ月に1回から、月3回程度に増えたそうです。「今は、人と直接会うことが貴重な機会。だからこそ、一緒に過ごす時間を少しでも充実させたい」という思いから、毎回、駅ナカで手土産を購入しています。

選ぶのは、誰にでも喜ばれるスイーツやワインなどの逸品。贈ることに自信が持てるネームバリューのあるブランドが、さらに駅ナカに欲しいと思うようになりました。

Eさんは今、「自分のため」の食料品や生活用品の購入は、自宅近辺の店舗やネットスーパーを利用しています。一方で、鉄道や駅ナカは、「人のため」に利用するようになったと実感しています。「自分のことではなく、人のために行動するのはいいこと」と、この変化をポジティブに捉えていると言います。

変化する環境に合わせて、自分のスタイルを更新していくEさんの感度の高さと柔軟さが印象的です。



Profile
40代女性 会社員 未婚
自宅最寄り:下北沢駅 勤務先:新橋駅
通勤の乗り換え:渋谷駅(帰宅時は表参道駅の場合あり)